

普及センターだより

No.133

MISATO



地域計画案策定検討会議（美里町）

地域農業の担い手と農業委員会などの関係者で将来の地域農業の姿について検討を重ねています。

普及の窓

大崎東部農業の「未来の設計図」を描こう

～地元の農業を元気に！「人・農地プラン」から「地域計画」へ～

総括次長 木村政浩

皆さん、地元は好きですか？ 私は、秋の日差しに照らされて、黄金色に輝く稲穂が秋風に揺れる風景が好きです。

今、農業を取り巻く環境は、一段と厳しさを増しています。高齢化や人口減少などから農業従事者は減少し、このままの状況が続くと、地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念されています。また、飼料や肥料などの資材価格の高騰や、高温、大雨などの異常気象により食料の安定生産、供給が危ぶまれ、食料安全保障についての議論が活発になってきています。

国は、令和4年5月に農業経営基盤強化促進法を一部改正し、各市町村が令和7年3月末までに「人・農地プラン」に変わる「地域計画」を策定するように法定化しました。「地域計画」とは、人と農地の問題を解決するための「未来の設計図」です。

10年後、誰がどのように地域の農地を守り、農業を進めていくのか。地域住民が一体となって地域の課題について話し合い、将来の農地利用の姿を明確化し、実現を目指して取組を進めていくことが大切です。

次代を担う後継者が「夢」「目標」を描ける、魅力あふれる「大崎東部の農業」の将来について皆さんと一緒に考え、地元の農業が元気に、活力みなぎるように取り組んでいきましょう。

令和5年度プロジェクト課題活動報告

美里農業改良普及センターでは3つのプロジェクト課題に取り組みました。その成果をお知らせします！

土地利用型農業法人の経営戦略の策定と持続的経営の展開

普及センターでは、農事組合法人おおぬき彩土里ファームを対象に、経営戦略の策定と持続的経営の展開を目指して、経営管理と栽培技術の2つの面から支援を実施しています。

経営管理では、財務諸表（貸借対照表と損益計算書）から経営状況を把握できるよう、それぞれのしくみと見方についての研修会を開催しました。また、5年後の将来ビジョンを作成し、今後の法人運営の見直しについて検討を行っています。

栽培技術では、収益向上と周年作業の確保に向けたさつまいもの試験栽培が開始され、ほ場排水性の向上や栽培管理技術の向上にむけて支援を行いました。今後は収支や作業時間の試算をもとに、経営の柱となる導入品目について検討する予定です。また、一部ほ場で課題となっていた難防除雑草について、調査結果を踏まえ、対策を提案しました。

今後も持続的な営農の実現を目指し、法人の経営管理と栽培技術の両面から支援していきます。



経営管理研修会

土地利用型農業法人が取り組む加工業務用になじんの生産安定



冬になじん現地検討会

美里町の農業法人5社が取り組む加工業務用になじんは、昨年の夏の記録的猛暑の影響を大きく受けました。夏になじんでは収穫直前の7月中旬の大雨と、その後の高温の影響で品質や収量にダメージがありました。冬になじんでは、播種期の7月下旬から8月にかけて高温乾燥となったため発芽不良となり、期待通りの収量が得られないほ場がありました。厳しい気象条件でしたが、生産者の皆さんの栽培技術は確実に向上し、病害虫防除や雑草対策を着実にいったことで昨年は黒葉枯病やキアゲハなどの病害虫は問題になりませんでした。

普及センターでは、出荷時期の拡大や可販率の向上を目指し、生産者と共に品種比較試験を実施したほか、初めて作付するほ場では土壌排水性評価を実施して乾燥や湿害リスクの「見える化」に努めました。

今後は昨年のになじん栽培の振り返りを行い、以降の作付に生かすことにしています。

堆肥の活用と施肥方法の改善による麦類の品質・収量の向上

涌谷町では、現在耕畜連携の推進のため町内に堆肥ストックヤードを建設中です。その堆肥を活用して町で作付の多い小麦「夏黄金」の収量・品質向上につなげるべく、堆肥の散布の効果や、町内産堆肥の成分から見た適正な施用量についての講習などの活動を行いました。また、麦作期間中に堆肥を散布し、生育への影響を調べる試験を行いました。堆肥は、連年施用したのちに、蓄積した効果が現れるため、初年度の結果は、まだこれからという部分もありますが、試験ほ場の生産者からは、堆肥散布ほ場では特に麦後作の大豆の生育が良くなったようだとの声も聞かれています。



「夏黄金」現地検討会

園芸特集

米から高収益作物へー水田を活用した露地野菜の導入ー

Topics 1 今、注目の露地品目は「たまねぎ」と「さつまいも」!

米価下落などが進む中、土地利用型経営体を中心に、水田を活用した露地野菜などの高収益作物を導入した取組が増えており、普及センター管内でも、その動きが広がっています。特に、「たまねぎ」と「さつまいも」が注目されています。

「たまねぎ」は、慣行の移植栽培に加えて、育苗の負担がない直播栽培の取組が増えています。また、「さつまいも」は、実需からの要望が高く、作付が拡大しているところです。どちらも省力的で機械化体系が確立されており、水稲・麦・大豆といった土地利用型作物との両立も可能なため、チャレンジしやすい品目です。このような高収益作物の導入を更に加速させるため、普及センターでは、JA新みやぎみどりの地区と共催で令和5年8月に「水田を活用した露地野菜導入セミナー」を開催し、直播たまねぎとさつまいもの生産について、情報提供を行いました。

今後も地域の気候にあった栽培体系の確立を目指し、露地野菜の作付の定着に向けて取組を強化していきます。



露地野菜導入セミナー

Topics 2 園芸を巡る新たな動き



稼働間近のトマト鉄骨ハウス

「デ・リーフデ美里」大規模トマト生産開始へ

令和4年12月に設立された株式会社デ・リーフデ美里が、美里町内の遊休鉄骨ハウスを活用し、県内最大級となる約2haの施設でトマトの栽培を行います。今年3月の生産開始に向け、現在、施設の改修や、栽培機器の整備を行っており、年間7,000tの生産を目指しています。

環境にやさしい施設園芸の取組

普及センターではJA新みやぎ仙台小ねぎ部会と連携して、化学農薬に頼らない萎凋病対策として「畝立後太陽熱土壌消毒」に取り組んでいます。夏の暑さも味方し、十分な効果が得られると生産者からは好評を得ています。



受賞式の様子

Topics 3 祝 令和5年度みやぎ園芸振興大賞受賞!

「宮城県ぽてと生産者協議会(写真左)」および「株式会社舞台ファーム(美里グリーンベース)(写真右)」が令和5年度みやぎ園芸振興大賞を受賞しました。

本賞は宮城県の園芸産出額向上に寄与する取組を行う団体に贈られます。両団体の産地育成の取組や地域雇用の創出などが高く評価されました。おめでとうございます!

JA新みやぎからコメントをいただきました!

「今後の園芸振興に向けて」

みどりの地区の園芸振興については、令和6年度以降も引き続き、こねぎ、ほうれんそうなどの施設品目の生産拡大のほか、土地利用型野菜の拡大として、省力化に向けた直播たまねぎの普及やさつまいもの拡大など全8品目で87.3haを目標に生産拡大に取り組みます。

物価高騰や高齢化など様々な問題がありますが、関係機関のご協力のもと、施設の活用や販売対策を重点的に取り組んでまいります。

新みやぎ農業協同組合 みどりの統括営農センター 営農支援課長 川村 隆浩

管内農業の動き

美里地区女性農業者キャリアアップ研修会

管内女性農業者の資質向上を図ることを目的とした視察研修会を、令和5年12月6日に川崎町で開催しました。

始めに、平成30年に就農してさつまいも栽培・加工に取り組んでいる「おいもや芋蔵」を視察し、さつまいもの栽培方法や収穫後の管理のポイント、干し芋加工時の乾燥時間や温度などについて学びました。次に、野菜生産・販売と青果販売を行っている「生駒農場株式会社」を視察し、

消費者目線での商品販売・陳列方法や、「食品ロス」解消に向けたカフェ経営、SNSを活用した情報発信や従業員の雇用などの取組について学びました。

普及センターでは、今後も研修会などを通じて女性農業者の資質向上と活躍を支援します。



「おいもや芋蔵」での視察研修



ねぎ調製施設の見学

美里4Hクラブ視察研修会

美里4Hクラブは、農業技術向上や相互研鑽、他農家との交流を目的として、管内の若手農業者などを中心に視察研修や交流会を実施しており、現在クラブ員10人で日々積極的に活動しています。

昨年8月末には、加美町のねぎ生産法人「タカノ産業株式会社」、食品製造業の「株式会社ピクルスコーポレーション 宮城ファクトリー」、醸造会社の「合名会社 寒梅酒造」を視察し、栽培技術や実需者ニーズなどについて情報交換を行いました。

現在、2回目の視察研修会に向けた準備を進めており、6次産業化と地域振興の取組などをテーマに開催します。

普及センターでは、今後も地域農村青年の技術研鑽や情報交流を支援し、地域農業の担い手の確保及び育成に取り組んでいきます。新規クラブ員も随時募集中です！興味のある方は、お気軽に普及センターまでお知らせください。

美里地区農業士会の活動紹介

優れた農業経営を実践し、農業後継者の育成と地域農業の振興に貢献している農業者を「農業士」として知事が認定し、研修などで資質向上と相互交流などの組織活動を行っています。

県内には作物、畜産、園芸など営農品目別に、指導農業士（40～65歳）118名、青年農業士（25～40歳）55名が各地区で活躍しています。

美里地区農業士会は指導農業士15名、青年農業士5名で構成され、視察研修などの研鑽・交流や総会、歓送迎会などを通じて情報交換を図ると共に、新規就農者の研修受入れなど、農業人材の育成への協力と地域農業の推進に向けて活動しています。



石巻青果花き地方卸売市場での視察研修

▶これまでの普及活動については「宮城の農業普及現地活動情報」(<https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu>)で紹介しています！

発行：宮城県美里農業改良普及センター

住所 宮城県遠田郡美里町北浦字笹館5

メール msnokai@pref.miyagi.lg.jp

電話 0229-32-3115 FAX 0229-32-2225

HP <https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



美里普及センターHP



みやぎの気候変動に適応した
農業技術情報サイト+ (プラス) HP



古紙パルプ配合率80%再生紙を使用

この印刷物は900部作成し1部当たりの単価は48.4円です。